



開催セミナー	平成 28 年度 職員海外研修報告会
日時	2016 年 11 月 17 日 (木) 17:00 ~ 18:30
場所	Lib. コモンズ
参加者	本学教職員 37 名 (教員 1 名、職員 36 名)
内容	<p>平成 28 年度タイ・チェンマイ大学での海外研修に参加した本学事務職員の報告会が実施されました。本学の事務職員海外研修は、語学力の向上と異文化理解の促進を目的として毎年実施され、帰国後に、大学職員の国際化、グローバル化への興味・関心を高めることを目的として、海外の大学事情や研修者自身の学び・気づきを共有する報告会を実施しています。</p> <p>研修報告 増村 尚人 (広報部)、良川 佑史 (研究機構)、 岩田 圭祐 (共通教育推進機構)、呉 斌傑 (情報センター) ポートフォリオ活用事例報告 堀田 幸平 (学生部)</p> <p>今年度の報告会では、海外研修に参加した事務職員 4 名から、現地での授業内容を中心に、英語を交えて、研修プログラム全体の報告が行われ、現地で取り組んだ調査の結果や、渡航前後の学習内容、各自が考える研修成果等についても発表されました。また、本プログラムの改善に取り組む、事務のグローバル化プロジェクトより、本研修プログラムの充実のため事前・事後研修に導入したポートフォリオの活用についても報告が行われました。</p> <p>本報告会は、多くの教職員に、本学のグローバル人材育成に向けた取組へ興味を持っていただくきっかけとなったとともに、本学事務職員の国際化、グローバル化について知っていただく機会となりました。</p>

開催セミナー	第 3 回 理系英語講義 FD 企画
日時	2016 年 12 月 7 日 (水) 17:00 ~ 18:30
場所	サギタリウス館 S202 教室
参加者	本学教職員 19 名 (教員 14 名、職員 5 名)
内容	<p>本学のグローバル人材育成推進事業では、理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部の理系 3 学部と外国語学部の協働で「グローバル社会で活躍する理系産業人育成プログラム」を展開しており、理系英語講義 FD 企画を毎年実施しています。第 3 回となる本年は「理系英語講義における学部間連携の可能性」をテーマとして、具体的なレッスンプランの共有を行いました。</p> <p>レッスンプラン報告：テーマ「系外惑星」 岸本 真 (理学部准教授「理学英語講義 (物理学)」担当) 桜井 延子 (外国語学部准教授「特別英語 (自然系リーディング)」担当)</p> <p>理学部物理科学科の 3 年次配当科目「理学英語講義 (物理学)」は、全学の学生や留学生にも開講されており、日本人学生には最先端の天文学を留学生と学ぶ疑似留学体験で、グローバルなコミュニケーションやアカデミックスキルを学ぶ機会となり、文系が多い留学生には日本人学生から物理の内容を教わる機会となっていることが紹介されました。また全学の学生向けに開講されている外国語学部の「特別英語 (自然系リーディング)」では、スキミングやスキミングによって、スキルとしての英語リーディング能力の習得を目指し、学生が研究や仕事に必要な英語での情報収集を実践的に学んでいることが紹介されました。</p>

参加した教職員の声より

英語による報告が取り入れられたことにより、「参加者のモチベーションの高さを強く感じた」等、研修成果を多くの教職員に感じていただくことができました。また、研修参加者の姿を見て、「語学研修にとどまらず、海外の大学の組織・制度等の勉強もしてみたい」、「学内でも職員向け英語教室を実施してほしい」等といった言葉が数多く寄せられ、海外研修に対して例年以上に興味を持っていただけた報告会となりました。

参加した教員の声より

二つの異なるレッスンプランに対して、理系 3 学部や他学部の教職員からも質問やコメントがあり、英語講義へのアプローチの違いを担当教員が知るこの意義が確認されました。具体的な授業テーマを用いた実践的な FD 企画であったため、「授業形式でやってみてもよいのでは」や「文系についても同様の機会が欲しい」、「大学院生に対する取り組みもあってよいのでは」などの意見がありました。

教育プログラム支援制度採択プログラム 「地域社会との連携参加体験型授業」実施報告

京都産業大学では、教育の質向上と教育改革の推進のため、全学的視点から重点テーマを提示して試行的な教育プログラムに支援を行う「教育プログラム支援制度」を学内公募で運用しています。この制度を活用して「地域社会との連携参加体験型授業」を通じたアクティブラーニングに取り組まれている、経営学部佐々木ゼミの活動を紹介します。

瀬戸内海の離島である姫路市家島町を現地調査し、離島活性化策を提案するというフィールド調査 (9 月 15 日 ~ 16 日) を、本学経営学部佐々木ゼミ 16 名と関西大学商学部横山ゼミ 18 名が協働で実施しました。両大学のゼミ生は事前に合同調査班 (混合班で各班 5 ~ 8 名) を作り、フィールド調査初日は、班ごとに行政機関や個人事業主、さらには島民や小学生などへのインタビューを通じて家島の魅力や課題を探り、家島の魅力を多くの人に知ってもらう方法を議論しました。翌日は、プレゼン準備の後、班ごとに家島活性化策の提案を行い、家島区役所代表や家島コンシェルジュから 2 月の最終提案にむけてのコメントや助言を頂きました。外部審査員出席による最終報告会を、2 月 20 日 (月) に関西大学梅田キャンパスで開催します。



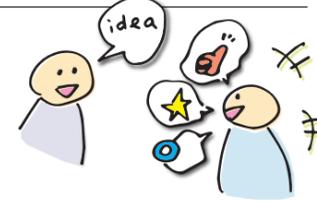
CERADES News Vol.9 2017 年 2 月発行
 編集 / 発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel : (075)705-1729
 e-mail : kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL : http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html



アクティブラーニングと教育支援研究開発センター

京都産業大学
 教育支援研究開発センター長

佐藤 賢一



こんにちは。昨年 10 月から教育支援研究開発センター長を務めている佐藤賢一です (実は 2 年ぶり 2 度目)。セラデスニュース第 9 号をお届けするにあたり、センターを代表してご挨拶申し上げます。

さて、何かと話題の、そして本誌面を賑わせてもいる「アクティブラーニング (AL)」、みなさんにはどのような響きのある言葉でしょうか？ AL にはどんな方法・手法があるのか？ どうすれば実行できるのか？ といったノウハウへの関心が高まっていますね。そして、そのような取り組みの結果、学生や私たち教員にどんなよいことが起こるのか？ 何が変わるのか？ も関心もたれています。

センターは、学内外の AL 事例を広く集め、みなさんと共有し、そして「よりよい学び」をみなさんと共に探し創る場として、これからもめいっぱい活動します。ぜひ、ご一緒に。

If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.

Contents

p2 全学 FD/SD 研修会
 「アクティブラーニングセミナー」
 授業規模、授業スタイルで考えるアクティブラーニング

p3 平成 28 年度 秋学期
 学部による公開授業 & ワークショップ

p4 FD/SD 活動の推進 —大学のさらなる進化に向けて—
 ・平成 28 年度 職員海外研修報告会
 ・第 3 回 理系英語講義 FD 企画

教育プログラム支援制度採択プログラム
 「地域社会との連携参加体験型授業」実施報告

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。
 CERADES (セラデス) は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

平成 28 年度

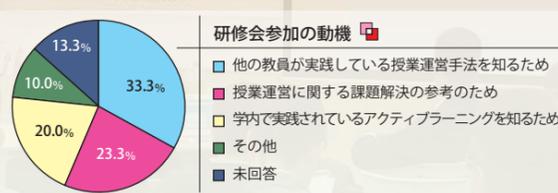
全学 FD/SD 研修会「アクティブラーニングセミナー」

授業規模、授業スタイルで考えるアクティブラーニング

教育支援研究開発センターでは、教職員が授業などについて学部横断で情報共有や意見交換を図り、個々の教育改善につなげる場として、全学 FD/SD 研修会を企画開催しています。12月7日（水）に開催された「アクティブラーニングセミナー」では、本学の「講義科目」、「初年次ゼミ」、「専門ゼミ」で実践されているアクティブラーニングの事例紹介を交えた意見交換が、分科会形式で行われました。

分科会では、文系・理系の事例紹介、アクティブラーニングの視点による授業の比較分析、それぞれの授業実践で共通する課題などについて意見交換が行われました。

参加された 39 名の教職員からは、文系・理系の枠を超えた活発な議論や質疑がなされ、他の教員の授業運営方法や、ご自身の課題解決への関心の高さがうかがえました。



分科会 A 講義科目

事例紹介

ハンドアウトやレポートを活用した講義の進め方について
(経営学部 上野継義 教授、文化学部 鬼塚哲郎 教授)

ハンドアウトやレポートを活用した上野先生の講義の実践事例を共有し、教室内での教員の活動（講義での語り、板書、ビジュアルの提示）と受講生の活動（ノートをとる、レポートを書く、など）をアクティブラーニングの視点で分析した後、参加者と意見交換を行いました。



参加者の振り返り

- ・従来の伝統的な講義でも、やり方によって学生の主体性が高まることが理解できた。(外国語学部 教員)
- ・学生のノートテイキングのことを考えて、授業を進める必要性を感じた。もっとリズムよく授業を進めたい。(外国語学部 教員)
- ・授業展開のノウハウが参考になった。知識教示に偏りがちな理系授業にどうとり入れるか? 今後自問自答である。(総合生命科学部 教員)
- ・登壇者の授業運営手法を聞くために参加したが、他の先生方からも新鮮なアイデアが聞いた。(経済学部 教員)



この分科会では事例共有・意見交換を通じて、講義科目には2つの「感」が大事なことに辿り着きました。一つは、学んだことを自分の言葉で説明できる「腑に落ち感」で、これにより学生の理解が深まります。もう一つは、学生が授業に出たくなる講義の「ライブ感」です。授業だからこそ感じられることを生み出す講義手法について、改めて考える分科会となりました。(コーディネータ:文化学部 鬼塚 哲郎 教授)

分科会 B 初年次ゼミ

事例紹介

法学部のプレップセミナーと法教育演習 (法学部 中井歩 教授)
生命システム学科における導入教育の取り組み (総合生命科学部 横山謙 教授)
文化学部の初年次ゼミについて (文化学部 草野友子 特任講師)

初年次ゼミでは、3つの学部の事例それぞれから、人間関係づくりの機会を得るため、また学部での学び方を身につけるために様々な仕掛けがなされている様子が報告されました。その後、複数の教員が担当する初年次ゼミの運営について、課題の共有や意見交換が行われました。



参加者の振り返り

- ・学部によって異なる初年次ゼミがあることがわかった。学部の基礎演習を考える上でとても参考になった。(外国語学部 教員)
- ・共通教育の初年次を担当しているので、学部の先生が初年次の学習状況をどうとらえており、どうアプローチしているかを知ることができて大変勉強になった。(共通教育推進機構 教員)



初年次ゼミは、新入生が大学に適應する上で重要な役割を果たす一方、学部での学びに必要なエッセンスをどこまで盛り込むのか、教材の選定や教授法にご苦労があるようです。「初年次科目を担う教員は、学生の学びの様子を見ながら、関わり方や教材など試行錯誤し続けることが必要ではないか」というお話も印象的でした。研修会終了後も科目についての意見交換がなされており、有意義な分科会となりました。(コーディネータ: F工房 大谷 麻子)

分科会 C 専門ゼミ

事例紹介

web コンテンツ・映像制作を通じた PBL 型ゼミの取組 (外国語学部 田畑恒平 准教授)
社会科学系における能動的なゼミにする仕掛け (経済学部 西村佳子 教授)
学際領域分野での特別研究の工夫 (コンピュータ理工学部 萩野晃大 准教授)

ゼミにおいて学生の責任感や積極性を醸成する様々な仕掛けが文系・理系の先生方から報告され、学生によるゼミ運営や、「事前学習」の仕掛け、更には昨今のゼミや学生の状況などについて意見交換が行われました。

参加者の振り返り

- ・学生のモチベーションの問題は、共通する難しい課題だと感じた。(コンピュータ理工学部 教員)
- ・ゼミ運営での事前課題の与え方について新しい視点が得られた (外国語学部 教員)
- ・ゼミやクラス以外の人を巻き込むと、外の視点を獲得して良い効果がありそうだ (教学センター 職員)



ゼミの運営方法は先生によって全く異なるということ、あらためて実感しました。参加された方々の反応やアンケートの結果を見る限り、今回のようにゼミの具体的な運営方法について情報共有する機会は稀であるように思います。今後も、こうした意見交換を続けていくことの必要性を感じました。

(コーディネータ: F工房 鈴木 陵)

「全学 FD/SD 研修会」の様子は、ホームページでご覧いただけます。 https://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/20161207_857_fdsd.html

今回のセミナーで報告された事例は、冊子「改訂版アクティブラーニング事例集」の中にも紹介しています

教育支援研究開発センターF工房では、2016年10月に「改訂版アクティブラーニング事例集～本学の先生方による授業改善の実践例を紹介します～」を発行しました。今回のセミナーで報告された事例のおよそ半分を、冊子の中にもご紹介しています。関心を持たれた方は、ぜひご覧ください。 <https://www.kyoto-su.ac.jp/features/ff/action/alp.html>



平成 28 年度 秋学期

学部による 公開授業&ワークショップ

京都産業大学では、各学部が教育改善に向けた年間の重点テーマを策定し、授業やカリキュラムの改善に取り組んでいます。秋学期には、これらの重点テーマに沿った「公開授業&ワークショップ」が各学部で実施され、教員相互による授業参観や、学部の課題・諸問題についての話し合いが行われました。

平成 28 年度の各学部の重点テーマ

- **経済学部**
「多人数科目の主体的な学びの追及と、科目による満足度・受講生のばらつきに関する調査」
- **経営学部**
「授業に関する教員間の情報共有の活性化と初年次教育の充実化」
- **法学部**
「少数教育の科目の充実と、履修選択行動と成長実感の把握」
- **外国語学部**
「アクティブな学びに向けて」
- **文化学部**
「演習科目（ゼミ）における学習成果の調査」
- **理学部**
「基礎科目の充実・到達目標システムの向上」
- **コンピュータ理工学部**
「数学系科目改革の実現とプログラミング系科目改革のフォロー」
- **総合生命科学部**
「事前事後学習の励行を促す授業形態の工夫」



「学部による公開授業&ワークショップ」の実施計画・報告は、ホームページでご覧いただけます。 <http://www.kyoto-su.ac.jp/about/info/enquate.html>